

◆ 実戦問題 16 ◆

〔妻がふと部屋を見ると、雇い入れた女が、首を取って鏡台に掛け化粧をしていた。〕

〔妻は〕主の殿（Ⅱ夫）に、「かかること侍るをば、いかが計らひ給ふぞ」と言へ

ば、「まづ何となく暇を出だせ」と言ふほどに、女を近づけ、「*近ごろ言ひか

ね侍れども、人多く侍れば、「二人も二人も暇を出だせ」とのたまふ間、そなた

のやうなる*重宝の人はましまさぬほどに、いつまでもと思へども、いづれも*譜

代の者にて、暇出だされぬ者どもなれば、まづまづいづ方へも出でられ候へ。そ

のうへ、夫の命背きがたく侍れば、重ねて娘嫁入りの折節は迎へ侍らん」と言ふ。

その時、女、気色変はりて、「さては、何ぞ御覧じて、かく仰せ候ふやらん」と、

そばへ近く居寄れば、「その方は何事を言ふぞ。またやがてこそ呼び侍らめ」と、さ

りげなくのたまへども、「いやいや、*曲もなきことなり」とて、飛びかかりける

ところを、男、(2)かねて心得けるにや、後ろに立ち添ひけるが、刀を抜き、はたと

切る。切られて弱るところを引き直し、心のままに切れば、年経たる猫なり。

センター試験

出題文

出典
『曾呂利物語』

『曾呂利物語』は、江戸時代に刊行された怪談集。

*何となくⅡ何ということなく。

首を取って化粧をしていたからなどという理由を示すことなく、の意である。

*近ごろⅡとても。非常に。

*間Ⅱ（ので）の意。

*重宝の人Ⅱ役に立つ人。実際この女は、いろいろな仕事がよくできたところでは書かれている。

*譜代Ⅱ代々同じ主家に仕えている者のこと。

*候ふやらんⅡますのでしょう。か。「やらん」は、「にやあらん」が縮まった形。

*曲もなきⅡつれない。情がない。

設問

問1 傍線③「暇出だされぬ」を例にならって文法的に説明せよ。

例 花咲きたり

〔答〕花（名詞）／咲き（動詞・連用形）／たり（助動詞・完了・終止形）

問2 傍線⑤「出でられ候へ」について、

(i) 助動詞「られ」の意味を記せ。

(ii) 現代語訳せよ。

問3 傍線④「れ」という助動詞について、

(i) 意味を記せ。

(ii) 活用形名を記せ。

問4 傍線①は「辞めさせろ」という意味であるが、その理由について、

(i) 妻は、女にどのように説明したのかを記せ。

(ii) 女はどのようなと推察したのかを記せ。

問5 傍線②の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 以前から、緊急時のために刀を磨き剣術の鍛錬に努めてきたのであろうか
- ② 前もって、女が何か危害を加えるかもしれないと予想していたのであろうか
- ③ 以前から、女の正体が化け猫であるという確信があったのであろうか
- ④ 前もって、妻からの依頼を受けていたのであろうか
- ⑤ 以前から、自分の出ていく機会をうかがっていたのであろうか

単語チェック

□ いかが 副

□ のたまふ 動ハ四

□ ますます 動サ四

□ 気色 名

□ 御覧ず 動サ変